

会議録

1 附属機関の名称

令和6年度第2回犬山市産業振興会議

2 開催日時

令和7年3月6日（木）16時00分から17時45分まで

3 開催場所

市役所205会議室

4 出席した者の氏名

- (1) 委員 井内尚樹、長尾亨、内田信也、松田昇平、奥村好樹、林龍春
酒向昌樹、大黒光一（順不同・敬称略）
- (2) 事務局 新原経済環境部長、山崎産業課長、阪下産業課課長補佐
鈴山産業課主査補、宮田産業課主査補

5 次第

- (1) 会長挨拶
- (2) 報告事項
 - ①犬山市の産業振興等に関する事業について
令和6年度の状況（資料1）
 - ②産業施策にかかる調査の結果について（資料2）
- (3) 議事
 - ①調査結果から見る事業者が抱える課題の深掘り（資料3）
 - ②その他
- (4) その他
- (5) 閉会

【資料】

委員名簿

(資料1) 令和7年1月末時点 補助金申請状況

(資料2) 産業施策にかかる調査の結果について

(資料3) 調査結果から見る事業者が抱える課題の深掘り

(参考資料1) 産業施策にかかる調査内容

(参考資料2) 産業施策にかかる調査協力依頼チラシ

6 内容

- (1) 会長挨拶
- 事務局 本日は、ご多用の中、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。ただいまから、令和6年度第2回犬山市産業振興会議を始めさせていただきます。産業課長の山崎です。よろしくお願いします。はじめに、経済環境部長の新原よりご挨拶申し上げます。
- 新原部長 お集まりいただきありがとうございます。今年度2回目ということで、色々と犬山市の産業振興に課題はあるかと思いますが、人手不足が深刻であると聞いております。少子高齢化や、人材のミスマッチ、それから今後の仕事に対する価値観の変化というところが考えられると聞いております。総務省の推計によると、2030年問題というのが取りざたされており、労働需要に対して労働力が少なくなるということで、人手不足の状況の中でいかに犬山市の産業を守っていくのかということになります。この会議の中でいろいろな対策や制度を検討していただければと思っています。ただ、闇雲に補助金を出せば良いという訳ではなくて、色々とまだまだやれることはあるのではないかと考えています。今日はそういった所の議事やアンケートの結果等もあるかと思いますが、皆様色々な立場の様々な視点から意見をいただければと思っています。本日はよろしくお願いします。
- 事務局 ありがとうございます。それでは、本日の会議につきまして、お手元の次第に沿って進めて参りたいと思います。概ね1時間半程度を予定しておりますので、よろしくお願いしますと思います。それでは、井内会長にご挨拶いただきたいと思います。
- 井内会長 皆さん、本日はお集まりいただきありがとうございます。アメリカ大統領がトランプ氏になり、日本経済への影響がどのくらいあるのかと思っているこの頃でございますが、循環型地域経済が確立されていて、地域での循環が上手く行っている、ローカルでやっていけるような地域であれば、そういった大統領の変更によることとかも気にしなくて良いのかなと思っています。以前フランスにいたときには、ほとんどアメリカや世界の情報を目にする機会はありませんでした。ローカルでやっている地域は気にしなくても良いということなんだと思います。日本はグローバル経済に取り込まれているということで、世界の情勢によって大きく影響されるのかなと思っています。そういったこれまでの状況ではありますが、犬山市が今後自立的に経済活動を行なっていけるように、今後とも皆さんと犬山市産業について検討していければと思っています。

事務局	ありがとうございます。この会議は公開で開催されます。また、撮影や録音についての定めのない会議の運営に関することは会長が定めることとなっております。現在傍聴人はおりませんが、撮影録音について取り扱いを決めていただきたいと思います。井内会長お願いします。
井内会長	会議中の傍聴人については、進行に支障をきたさないよう、自席からの撮影とし、録音については、録音した音源を公開するなどの行為はしない。あくまでも個人としてのメモとして利用する場合に限り許可するとさせていただきたいと考えますが、ご異議ございませんでしょうか。
一同	異議なし。
井内会長	ありがとうございます。では、そのように進めていきたいと思います。
事務局	ありがとうございます。それではまず新委員の委嘱ということで、金融機関の関係者として、金融懇話会の幹事をお願いしております。前回は東濃信用金庫犬山支店の渡辺支店長でしたが、幹事の交代に伴い、令和6年10月より岐阜信用金庫犬山支店の酒向支店長に委員をお願いすることとなりました。委嘱状については、本来市長からお渡しするべきところですが、時間の都合上、お手元に配布させて頂いております。ご確認の上、ご査収いただきますようお願いいたします。酒向委員から一言ご挨拶お願いします。
酒向委員	岐阜信用金庫の酒向です。金融懇話会の代表として、本日しっかり務めたいと思います。今日はどうぞよろしく申し上げます。
事務局	ありがとうございます。続いて、先日送付させていただきました資料の確認をさせていただきます。
	(資料の確認)
事務局	本日は、委員総数11名に対し出席委員8名の出席となっております。会議を開催するにあたり、委員の過半数にご出席いただいておりますので、「会議規則」第4条第3項の規定により、会議は成立いたしましたことをご報告いたします。会議の内容については、後日、資料と会議録をホームページで公開する予定となっておりますので、あらかじめご了承ください。会議録につきまして

ては、2人の委員が署名することとなっております。前回までの方法にならって、名簿順ということになり、本日の会議録は、酒向委員と大黒委員にご署名いただくこととなりますので、よろしくお願ひします。それでは、会議に移りたいと思います。会議規則第4条第2項の規定に基づき、会議の進行につきましては、井内会長にお願いしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

井内会長

それでは、会議を進めさせていただきます。報告事項 犬山市の産業振興に関する事業について、事務局より報告をお願いします。

2. 報告事項

事務局

(1) 犬山市の産業振興等に関する事業について

令和6年度の状況(資料1)

【事務局より資料1を用いて説明】

○質問・意見等

井内会長

ただ今、説明ありました事業実績についてですが、こちらは、産業振興補助金については既に締め切っているものでこれで終了ということですが、事業継続支援補助金や創業支援補助金はまだ変動がある可能性は残しているとのことですが、産業振興補助金では令和5年度から補助額が変わったものがあったり、今年度から新設された就職サイトの補助があるようですが、なかなかこちらは利用されなかったということでした。皆様からこの状況への評価やご意見があればお願いしたいのですが、順番に会議所の奥村委員からいかがでしょうか。

奥村委員

特に事業継続支援補助金については、これの他に持続化補助金というものがあるのですが、それよりもこの制度は手続きが簡単にできるということで、非常にありがたい制度となっております。今後も続けてもらえるのがありがたいです。ただ、今事業者の数は増加傾向にあります。これは、飲食店等小規模な事業者の話で、創業者が多くて個人事業主は増えているのだと思ひます。ただ、いわゆる中小企業は非常に厳しい状況にあります。人件費を上げてやっていく中では、なかなか厳しいというように聞いています。本当であれば、本社機能を持った工場とかが進出してくれるとありがたいんですが、なかなかそう上手くはいかないのかなと思ひます。ただ、色々な講習に出ていると40年周期で経済は良くなるというような話も聞いています。今年はその40年目に当たります。なるべく悲観的にならずにやっていければと思ひます。

井内会長

ありがとうございます。それでは、観光業からはあまり補助金の申請は無か

ったようですが、今の観光の話も踏まえて松田委員いかがでしょうか。

松田委員

今城下町の店舗は、目一杯に出店してもらっていて、なかなかもう場所がないような状況なのですが、その中でも人的な移動があって、従業員の方がある店舗からある店舗に移るといったこともあるようです。補助金の話に移りますと、補助金の周知が広報や会議所によるものが大きかったとありました。今一つの課題として、城下町の出店社組合がないということがありますが、市と観光協会とが協力して、交流できる場を作っています。ワークショップを開いたり、夜には飲み会を企画したりして交流しているのですが、ゆくゆくは組織なり組合なりになっていって、そういった場でこのような制度をPRできると、口コミでも広まって行って良いのではないかなと感じています。

井内会長

ありがとうございます。では、内田委員いかがでしょうか。

内田委員

全体的に多くの事業者が補助金を使う機会が増えてきていて、制度の周知が上手く行っていると感じている。一点お願いになるのだが、特に初めて参加する委員さんもいらっしゃるので、産業振興補助金等は時系列での資料としてもらえるとうれしいです。これまでがどういった推移をしているかが見えると良いのではないかと思います。

井内会長

ありがとうございます。では、長尾委員お願いします。

長尾委員

だんだんと補助金を使っている人が増えてきているのは良いと思います。後は使った人からの話で効果等が分かると、より予算等も取りやすくなるのではと思います。また、少し農協からということで農業についてもお話をさせていただきます。現在も非常に高水準での米価が推移しておりまして、政府備蓄米が放出されるというのも、皆さんニュース等でご存知かと思いますが、農家や卸売業者からすると微々たるもので、農協でも販売はしていますが今年の秋ごろまではこの高い価格が続くのではないかと予測しています。

井内会長

ありがとうございます。では、林委員どうでしょうか。

林委員

補助金の利用者が増えているのは良いことで、これまでの周知の取り組みの成果なのかなと思います。ただ、我々民商の会員だと、一人親方とかが多くて、補助金は欲しいんだけど、なかなか対象にならないという状況にあります。最近建設業の方、中でも大工さんとか鉄筋屋さんとかに聞いた話では、これ

までは職人さんの日当1万8千円くらいが相場だったのが、材料費等の高騰で親会社が採算を合わせるために人件費を圧縮して、1万5千円とか1万2千円とかにされているそうです。この値段ではできないという、じゃあ他に頼むから良いわとなってしまうような状況で、話を聞いた業者さんは50代とかの方だけど、これではやっていけないと廃業してしまう場合もあるそうです。

井内会長

ありがとうございます。では、酒向委員お願いします。

酒向委員

我々金融機関の目線でいうと補助金が増えるイコール投資が増えるということで当然プラスの話であります。創業支援の話でいえば、特に地元の事業者をどう増やしていくかが地域金融機関にとっても大きな課題でありまして、この創業支援補助金を利用してもらいながら、金融機関としても協力ができればと思っています。

井内会長

ありがとうございます。大黒委員どうでしょうか。

大黒委員

先ほど話も出ましたが、この補助金を使った効果が見れると良いのかなと思います。また、就職情報サイトの補助が今年からできていますけど、企業の方から聞くと何に出してもなかなか効果が出ないと聞いています。採用活動の方法がものすごく多様化していて、この補助が使いやすくなっているのかと、少し引っかかっているところではあります。また、人手不足というのは犬山市に限った話ではないのですが、当大学にも求人のための訪問が去年は280社ほどだったのが、今年は現時点で360社ほどありました。また、関東や関西など遠方から来られる企業さんも増えているので、地元に残ってもらえるための策だったり、今の採用システムに合わせた制度にしていくことが大切だと感じます。

井内会長

ありがとうございます。かなり訪問も増えているようですが、今ニュース等で初任給30万円35万円と言われたりしていますけど、来ている会社はどうでしょうか。

大黒委員

愛知県内、特に近隣から来られる企業さんはほぼ上げられていないです。ただ、関東や関西から来られる会社さんは5～10万円くらい初任給は違うなっているのが現実です。そこに太刀打ちできるのかというのが課題だと思います

井内会長

ありがとうございます。それでは、他になれば、次の報告事項をお願いします

ます。

事務局

(2) 産業施策にかかる調査の結果について

【事務局より資料2を用いて説明】

○質問・意見等

井内会長

今2種類のアンケートの結果についての報告がありました。特に先ほどからのご意見にもありました産業振興補助金等の利用者からの声ということです。平成30年度から令和6年度までで補助金を使ったことがある方にアンケートを取ってもらったのですが、33社中28社が答えていただけたということで、それなりに信憑性のある結果と言えるのではないかとこの所です。また、利用していない方向けに一般的なアンケートもしてもらったのですが、周知も振るわなかったのか、かなり数が少なくて、市内事業所の1～2割ほど取れるといいのかなと思っていたのですが、なかなか難しかったという所です。利用された方のアンケートは85%の回収率なのでそこそこといったところですので、皆様から意見や感想をいただけないでしょうか。大黒委員よろしく願いいたします。

大黒委員

アンケートでも度々出てくるのが人手不足ということで、ここにどう手を打っていくのかということですが、前回の会議の際に細江委員からも話があった外国人人材を確保できないかという件についてです。当大学では外国人留学生の新2年生が139人います。このあたりに住んでいる生徒も多いのですが、このエリアの企業においては外国人人材の雇用に理解が進んでいないと感じています。私たちとしてももどかしく思っているところです。また、特に大学生の就職活動についてはものすごく早期化が進んでいるものの、そこについても近隣企業については理解が進んでいないのではないかと感じています。名古屋や関東の企業が早期に採用活動をして若い人材を確保してしまっていることを考えると、今良いアイデアを出せるわけではないですが、外国人人材や就職活動の早期化に企業側もどう対応していけば良いか分からないというお話もあったので、その辺りも検討しなければいけないのかなと感じました。

井内会長

ありがとうございます。では、酒向委員どうぞ。

酒向委員

人手不足の解消に向けたアイデアとなるとなかなか難しいのですが、我々の取引相手でもある美濃加茂市や可児市の企業さんと外国人人材が非常に多くて、可児の小学校だと4分の1くらいが外国人の児童がいるような状況でし

た。市内の放送でも日本語だけではなく英語やタガログ語で流れるなど、町として外国人を受け入れる体制ができているのかなと感じました。可児は工業団地を作ってまちづくりを進めてきたということで、犬山市とは歴史や経緯が違うのでなかなか参考にはしにくいのかもかもしれませんが、市や商工会議所が大きく舵を切って、外国人を受け入れられるような体制ができると良いのかなと思います。

井内会長

林委員はいかがですか。

林委員

アンケートを取るのが難しいというのは、我々も会員向けにチラシを入れてもなかなか見てもらえないというところで、同じようなことを感じているところで、こういったものは時間をかけて訪問などして調査するのも一つの手段かと思います。また、建設業界の話になりますが、解体業者は今多くが外国人を採用してやっています。壊す方はそれでも大丈夫なんですけど、作る方はなかなかそう上手くいかなくて、日本人のきめ細かな職人作業っていうものは、外国人には任せきれない部分があるのかと感じています。先日の道路陥没事故の件を考えても、今後インフラが老朽化してくると建設業の需要は増々伸びると思うんですが、そこに当たれる人がいるのか、業者があるのかというのは課題になってくるのかなと思います。

井内会長

ありがとうございます。では、長尾委員お願いします。

長尾委員

この結果を見ると、制度を知ったきっかけとして広報など紙媒体が多く、ホームページ等のウェブ媒体は少ない傾向にあります。我々も何か補助がないかと探す際に、農水省のホームページ等を確認するんですが、こういった補助があるではなくて、こういった事業をするとこういう補助があるというような逆引きがあると目に留まってもらいやすいのではないかと思います。また、先ほどお話した補助金の効果としてアンケートを取って頂いているところになるのですが、どうしても「良かった」などざっくりしたイメージでの回答になってしまうので、これをして売上がどうなったか、雇用が生まれたかなど、難しいとは思いますが、細かいところまで知れると良いのかなと思います。

井内会長

では、内田委員お願いします。

内田委員

2点ほどお話をさせていただきます。1点目は今回産業振興補助金のアンケートということで対象では無いんですが、事業継続支援補助金については成功事

例というようなイメージで、実際に利用した方からの声を事例集みたいな形で作れると、これから使おうという事業者も出てくるのではないかと思います。もう一点が先ほどからお話が出ている外国人雇用について、当社は自動車整備業と運輸業をしているのですが、整備業については外国人を技能実習制度ということで、3～5年間、現地から教育の一環で来てもらってとしました。ただ、せっかく教育しても最後には帰ってしまうということになるので、難しいところがありました。2027年からは育成就労という制度に代わり、労働力として雇っても良いとなるので変わってくるのかなと思います。また、それに加えて特定支援ということで、最終的には家族にも来てもらって大丈夫という制度になっています。ただ、まだまだそういった外国人雇用に興味がないという事業者がほとんどですので、情報発信や共有というのが大切になってくるのかなと思っています。興味がない事業者がほとんどなのですが、外国人雇用をしていかないと企業として継続していくのが難しいのではないかと感じています。当社も言葉の壁というのは感じているので、今国際交流協会とタイアップして、日曜日に勉強会を開いたりしています。整備の方は半分以上が外国人の方に来てもらっているような状況ですので、日本人だけでは足りない部分を埋めてもらうというのが大切になってくるのかなと思っています。

井内会長

ありがとうございます。松田委員どうでしょう。

松田委員

利用者向けのアンケートについては85%の回収率で、内容についても補助金を評価するという声が多く良かったのかと思います。ただ、もう少し具体的にどういった所を評価してもらえてるのか等まで拾えるとより良いのかなと思います。また、自由記載欄への内容に観光業への内容もいくつかありました。やはり今犬山の観光はかなり調子がよく評価してもらえているのかなと感じています。また、次に皆さんと同様になるんですが、人手不足問題については、どの事業者も課題に感じているところで、アンケートにも表れているなど感じています。以上です。

井内会長

インバウンドの方も非常に多いと聞いていますが、犬山の城下町ではインバウンドの方の対応に外国人を雇うようなところまでいっているのでしょうか。

松田委員

昨年10月に城下町の店舗の方向けに、インバウンドをテーマにしたワークショップを実施して、どういった課題があるかを聞き取りました。やはり受け答えで多少苦勞するところはあるようですが、そこに外国人を通訳的に入れるまではいかず、翻訳ソフトを使ったり、専用のチラシを作ることで対応できて

いるとのことでした。インディゴホテルのような大きなところだと、外国人を雇用しているところもあるようですが、中小のお店ではなかなかそういったことは無いようです。

井内会長

ありがとうございます。では、奥村委員お願いします。

奥村委員

産業振興補助金は利用も多く、どんどん続けて欲しいと思います。ただアンケートにあるように、申請書類が多いとかはあるようで、県の補助金とかよりは簡単だと思うのですが、意見としては出ているので検討いただければと思います。また、今文部科学省が出している制度で、高校卒業程度試験というものがあるようです。中学までしか卒業していないので、就職に苦労しているような人が、高卒の資格を得ることで働き口が広がるということで、周知していきたいと思います。次に、今どんどん中小企業の廃業が増えています。下請けの中間製品を作っているところが倒産してしまい、委託していた会社の生産ラインが止まってしまうということもあるようです。ノウハウを持った会社が倒産してしまうと、影響は他にも及ぶので、何とか止めていきたいなというところではあります。今度一宮の会議所を中心にスタートアップ連携の拠点を作ります。一宮市から津島市江南市小牧市瀬戸市犬山市と全部で15000社ほどの会員さんがいます。そういった方々とアイデアを出し合いながら対策を考えていければと思います。

井内会長

ありがとうございます。少しまとめる必要があるのですが先に議事に入って、その辺りを話せればと思います。事務局お願いします。

事務局

3. 議事

(1) 調査結果から見る事業者が抱える課題の深掘り

【事務局より資料3を用いて説明】

井内会長

今事務局よりありましたように、雇用促進ということで人件費補助を令和5年度に5万円から36万円に上げたところでしたが、今年度は広報の効果がかなりあったようで、一気に申請があったということでした。本来的には企業の売り上げが伸びて賃金を上げられるような状況が良いのですが、なかなか上手くはいかないということでこの補助金を作られたのですが、こればかり使われてしまうと、産業振興補助金の本質から外れてしまうので、金銭的支援ではない何か仕組みができないということでした。犬山の中小企業の方々に効果の出るような、マンツーマン支援ではない施策を検討していきたいということで

す。先ほど皆さんからご意見もありましたが、犬山で育った人が犬山で働き犬山で暮らす。そんな仕組み作りと、逆に人手不足なので人を呼ぶ、特に日本人に限らず外国人でも働いてもらえるような環境作りをしていくような両方の立場を考えた施策を検討していく必要があると思います。ちなみに犬山市としては外国人の共生に向けた取組等はしているのですか。

事務局

令和6年度より機構改革で多様性社会推進課という部署が、これまで一つの担当であったのですが、独立した課として新設されました。これまでも実施していたのですが、外国人受け入れなどの多様性社会の推進に向けた取組は力を入れて取り組んでいるところになります。まだ取り組んでいる途中にはなりますが、新しい施策を実施する際には、多言語化であったり、多様性に配慮されているのか等の確認をしてもらうような形になっています。

井内会長

市としても外国人については積極的に受け入れていこうということですが、たくさんのお金を使ってという施策ではなく、仕組みで何かできないかということですが、先ほどから外国人の受入に関しては何度かご意見頂いていますが、一番良いのは犬山で生まれた人が犬山で働いてくれることかなと思うのですが、ご意見みなさまからいかがでしょうか。

大黒委員

今はビザの種類が非常に増えてきていて、私も名古屋経済大学に8年前に来たから留学生の相手をするにあたって色々と勉強しているところになるのですが、企業側がそういった情報をほとんど知らないというのが問題だと思えます。企業の方と話していると、人手不足なので外国人を雇いたいが、外国人だから安く雇えると思っている方が多くいました。本学の留学生は大卒になるので基本的には日本人と同じ基準でとなるのですが、そういった法律的理解が進んでいないのかなと思います。どうしても言葉が喋れないと思われてしまっているようで、以前コロナ前には一宮の商工会議所等に留学生を連れて行って、留学生でもこんなに喋れますよと周ったのですが、だいぶイメージが変わったようでした。法律的理解とコミュニケーションの偏見な認識があるのかなと思います。日本人の話でいうと、犬山市はどうしても名古屋まで20～30分で行けてしまうので、名古屋の企業に出ていってしまうということがあられるようです。これはなかなか止めようがないのかなと思うので、新卒第2新卒で地方に残ってもらうのではなくて、30～35歳のミドル人材に戻ってきてもらえるようにすると良いのではないかと思います。

井内会長

ありがとうございます。金融機関だと地元で採用しているようなケースが多

いのかなとも思いますが、その辺り踏まえて酒向委員いかがでしょうか。

酒向委員

信用金庫の場合ですと、営業区域が地元に限られるので当然地元の採用が多くなるのですが、岐阜信用金庫の場合、岐阜も広いですし名古屋にも支店があり、広域にかけて異動等もありますので、エリアに分けた採用を行なっています。そこで採用されるのは、関東や関西に行っていた方ではなくて、名古屋の方の大学に行っていた方が多くいます。外国人人材の話は解決策が難しいのですが、例えば名古屋経済大学にいる、起業したいという学生のお手伝いをして、地元に残ってもらえると良いのかなと思います。

井内会長

製造業とかだと大きな企業に入って関東の方とかに行ってしまうんですけど、金融機関の特に信用金庫に入る方は地元志向が強くて、特に私の大学の学生でも信金に入る子はそのまま一生地元にいるというケースが多いようです。林委員、先ほどのお話で解体業は外国人も多くなってきているとのことでしたが、小規模事業者はどうでしょうか。

林委員

車の関係なんかはロシアやパキスタンの辺りでは、すごく稼いでいる方が多いようです。日本で同じ仕事をしている方は全然稼げていなくて、じゃあそっちに向けて仕事をしたらとなるのですが、どうしても言葉の壁があったり、パイプラインが無かったりで難しいようです。別件で、若い子たちが関東関西に出ていたり、名古屋に出ていくというのは、基本給のベースが高いというのはありますけど、一種の憧れがあるのではないかなと思います。この辺りはのどかだけど、名古屋にすぐに行けるということで、良いところだと思うのですが、どうしても都会に住みたいという考えで出て行かれるのではないかと思います。また、外国人人材の話ですが、やはり今の研修制度は安く人を使えるということで、企業側も使っていたとかんじているのですが、そうすると期間が終わればやめてしまうとなるので、やはり外国人人材も日本人並みの待遇で雇用していかないと、人手不足というのは無くならないのだと思います。今だと日本で働きたいけど就労ビザの関係があり、日本で働けないという方が多くいるのではないかと思います。特に日本に住んで、日本になじんでいる方の家族とかをよべるような、そうした規制を緩和してもらえると、人手不足解消に向けた一つの施策になるのではないかと思います。

井内会長

ありがとうございます。農業の人手不足とかはどうなんでしょうか。

長尾委員

今犬山市の農業は主に二つの作物があります。一つはお米で、市内に600

ヘクタールの田んぼがあります。もう一つは桃で、こちらは担い手不足が深刻化しています。このままでは無くなってしまうのではないかとというレベルになりますが、この辺りでは農業に外国人の方が従事するというのは多くないのかなと思います。ただ、愛知県は全国8位の農業生産量になり、三河地域では外国人の就農者が多くいます。

井内会長

ありがとうございます。内田委員どうですか。

内田委員

先ほどから出ている外国人問題ですが、一番大事なのは協同組合のような管理団体をしっかり選ばないといけないと思います。今は個人法人含めると1万社ほどの管理団体が日本にあるようです。そこが良くないところに頼んでしまうと、あまり良い人材を紹介してもらえないようで、その辺りの質を考える必要があるのかなと思います。

井内会長

松田委員はどうでしょう。

松田委員

観光に来てもらうというのはもちろんなのですが、今は犬山に住んでもらう、犬山で働いてもらうというために、まずは犬山って良いところだなと思ってもらうことが大切なのかなと思います。それは産業施策ではなく、総合政策になってくるのかなと思いますが、シティプロモーションをして犬山での定住促進や犬山への移住促進を進めて行けると良いのかなと思います。

井内会長

ありがとうございます。最後に奥村委員お願いします。

奥村委員

先日お聞きした話で、今年犬山市の新成人が740人いたけど、昨年生まれた子は352人だったそうです。半分以下になってしまっているのが現状です。加えて、75歳以上の方が12000人いますが、企業からするとなかなか75歳以上を雇用するというのは難しいものがあります。そう考えると、人手不足に手を打つのは正直かなり苦しいので、DX化を進めて人手を減らすというのが大切になってくるのかなと思います。中小企業に対してはDX推進のための補助、小規模事業者はどうしても人手が必要になりますので、運転資金の補助といったことが必要ではないかなと思います。

井内会長

ありがとうございます。他に意見が無ければ、人手不足の解消をどうするかという点について、まずはキッカケの議論ということで意見をいただきました。議事は以上となります。

井内会長

4. その他

最後にその他事項として、何か取り上げたい事項はございますか。無ければ私から一点、STATION Aiについて紹介させていただきたいのですが、ここはスタートアップ企業、いわゆる創業の支援機関ということで、愛知県が出資して建設された機関です。今までとは少し違ったスタートアップの機関ということで、私も3、4回行っているのですが、犬山の今仙電機さんとかもブースを持っているようです。地方自治体によっては市がブースを持っているケースもあるようですが、非常にオープンな環境が用意されているようです。金融機関とかも合わせると500社くらい、自由に仕事のネタ集めをやっているような環境です。いろいろとアンテナ高くして使うと良いのかなと思いますので、犬山市も情報収集とかやってみると面白いんじゃないかなと思います。今年も愛知県の予算でスタートアップ支援みたいところに付いていましたし、アジア競技大会も名古屋で開かれて、非常に活発になっていくかと思えますので、この産業振興会議でも今後考えていけるとよいなと思います。以上です。それでは進行を事務局に返します。

事務局

(5) 閉会

ありがとうございました。今回は意見を皆様から頂くという形式で実施させていただきました、たくさんの意見をありがとうございました。今回はあまり触れられなかった人手不足対策に関する点として、地元に残ってもらうための手段として、企業を知ってもらうための工場見学をしてもらえないかという話を企業さんからもらうことがあります。来年度商工会議所の中の青年部に政策立案委員会というものが立ち上がるそうです。政策立案ということで、要望団体というものではなく、一緒に課題を考えていくアクションをしていく団体ということなので、今回皆様に深掘していただいたことも踏まえて、取り組めると良いのかなと思います。また、別でご報告として、事業継続支援補助金について来年度診断士の先生たちにアンケートという形ではなくて、事業を実施した企業に対しての調査をしてもらおうと思っています。またその結果等についてはご報告させていただければと思っています。最後にご連絡として、産業振興会議の任期については来年度の8月までとなります。是非次もお願いをさせていただきたいと思うのですが、団体等をとおして委嘱している場合もありますので、色々ご協力お願いいたします。

それでは改めて、本日はありがとうございました。